

都市医師会長プロフィール

岩内古宇郡医師会

北山 秀 先生



平成26年5月の理事会にて、共和町にある前田診療所の北山秀先生が岩内古宇郡医師会の会長に就任されました。

当会では今までの会長の任期は2年2期の4年が定例でしたが、医師数が減少し、出席しなければならぬ会議も多く、各々の会員の負担も考え、今回から会長の任期は最低2年になりました。任期が短くなることで、皆が会長職をやり、負担を減らしましょうという意図です。新会長の紹介をさせていただきます。

北山先生は昭和62年に大学を卒業し、平成3年に北海道に戻られ、滝川、苫小牧、北見、帯広など多くの病院で研鑽を積まれました。その後、地域医療に長く貢献されていたお父様の前田診療所を平成15年4月に継承されました。現在、お父様と同じく地域医療に励まれており、医師会の仕事のほかに産業医、学校医、特別養護老人ホームの回診など、さまざまな仕事をされています。

岩内古宇郡は高齢化と人口減少、協会病院の医師不足などさまざまな問題があります。「高齢化に伴う認知症患者」に対しては、前会長の石山先生が道筋をつけてくれた岩内古宇地区における認知症患者の医療ネットワーク構築の継続を、「協会病院の救急医療」に対しては、医師会として何ができるのか、などやらなければならないことは多いようです。

当医師会にはさまざまな科（小さい町ですが、内科はもちろん、外科、耳鼻科、整形外科、眼科があります）があり、北山先生をはじめ、地域医療を考えて医院を継承するため戻っている同世代の先生が多いことが特徴と思っています。この特徴を生かすような医師会活動ができるよう、ほんわかした雰囲気、お酒が入るとちょっと強気な正論を話し出す先生を全員で支えたいと思います。

北海道医報通信員 寺山 亜希子

帯広市医師会

稲葉 秀一 先生



平成26年5月に行われた帯広市医師会総会にて、堀修司会長の後任として稲葉秀一先生が新会長に選出されましたので紹介させていただきます。

稲葉先生は昭和28年・川西村（現・帯広市川西町）生まれで、現在61歳です。昭和55年に北海道大学医学部を卒業され、第一内科に入局後、砂川市立病院、岩見沢労災病院、市立旭川病院を経て、昭和62年に古里の帯広厚生病院に勤務されました。平成8年9月にいなば内科呼吸器科を開業され、現在に至っています。

医師会活動としては、平成17年から医療政策部、地域福祉部、財務部、平成21年から総務部長として医師会活動の全体を把握し、アクティブに活動されてきました。特に新型インフルエンザ流行時の行政との折衝と迅速な対応は見事なものでした。また、平成26年4月から動き出した帯広市休日夜間急病センターの設立に際しては、医師会内での意思のまとまりが十分ではない条件下で粘り強く討議を重ね、医師会会員の少数意見を尊重しながらも前向きに前進する姿勢は、まさに会長になるべく器と、衆目の一致したところでした。

先生はとても面倒見がよく、十勝エルム会会長、日本酒の会の幹事、PTA会長、私的ゴルフの会の連絡係、飲んだ後の領収書の手配など、他人が面倒くさがることを率先して引き受けてくれます。また、医師会の若返りを図るべく、積極的に若手医師と意見を交換し、理事会にはフレッシュな人材を多く登用しています。今後の医師会をダイナミックに牽引してくれることと確信しています。

先生の趣味は旅行で、全国で宿泊経験のない県は3県（岩手、群馬、茨城）のみだそうです。そのほか、酒を酌み交わしながら楽しく会話することや、ゴルフなどがお好きです。ゴルフの腕前はイマイチですが、真面目にひたすらボールを追う姿は、先生の性格をそのまま表しているようです。

これから多忙な日々を送らねばならないことは明らかですので、体調に留意されて難問を解決して欲しいと願っています。

帯広市医師会監事 村越 敏雄